

氷川町を担う中学生11人が問う11の疑問

町内の中学生11人が氷川町の将来や身近な問題について、中学生の目線で考え、町執行部に提言や質問を行いました。その質疑応答の内容をご紹介します。

※質問と答弁については、誌面の都合上、一部省略して掲載しています。

竜北中 3年 平野 航 議員

道の駅周辺環境整備について

道の駅「竜北」は多くの人で賑わっていますが、周辺には竜北公園や古墳群もあり、高速道路のインターチェンジもできました。このような資源を生かしつつ、道の駅周辺を整備すれば、もっと多くの人に訪れてもらい、町の活性化につながるのではないのでしょうか。



答弁 農業振興課長

現在、竜北公園を会場とした氷川まつり、古墳群を巡る「道の駅」竜北ウォーキングなどのイベント、グリーンツーリズム事業など、自然環境を生かしたソフト的整備により、多くの集客と活性化につながっています。施設整備は相当の予算が必要となるため、慎重な計画が求められます。今後も道の駅を中心としたソフト的環境整備も含め、いろいろな資源を生かし、さらなる活性化につなげていきたいと思えます。

竜北中 3年 上本 千乃 議員

宿泊通学体験について

私たちは小学6年生の時に、立神峡里地公園で宿泊体験を経験しました。普段できない経験をし、友達との絆を深め、達成感を味わったりしながら成長してきました。このような体験を行うようになった理由や目的、これからの計画を教えてください。



答弁 生涯学習課長

宿泊通学体験は「自主性・自立性・協調性を培う」「家族の一員として家庭での役割を考え、実践できる態度を培う」「立神峡の自然環境や生活体験を通し、児童の教科学習への興味関心を高め、学習効果を上げる」という3つの目的を掲げています。この事業は郷土の自然を知り、ふるさとを愛する心を育てる機会にもなっていると思います。今後も、意見を取り入れながら、良い事業となるよう継続していきます。



氷川中 3年 山村 千尋 議員

放課後子どもプランについて

放課後の子どもたちの安全で安心してできる活動拠点として、町の計画に放課後子どもプランがありますが、町としての考えはどうでしょうか。また、学校と連携することで、参加を促したり、学習意欲を高めることができるのではないのでしょうか。



答弁 生涯学習課長

放課後子どもプランは、放課後や週末などにおける子どもの安全な居場所を確保し、勉強、スポーツに取り組めるようにするものです。現在、氷川町では3つの小学校に「放課後児童クラブ」(学童保育)を設置しており、放課後の家庭に代わる居場所の役割を担い、定着してきていますが、放課後の学習支援など学校と連携した取り組みは行っていません。今後、学校や民間との連携が必要になるものと思われるので、プランが充実したものとなるよう検討していきます。

氷川中 3年 小川 舞 議員

創り上げる福祉を推進するための多様な人材の育成について

氷川町には多くの高齢者福祉施設がありますが、それらが充実していく中で、介護分野での人材不足をどのように補うかが課題となります。町民全体で高齢者を支えるための施策を実施することで、氷川町の福祉が「創り上げる」ものとなるのではないのでしょうか。



答弁 健康福祉課長

介護の現場では、離職率が他に比べ高いと言われていています。町としては、介護に携わる人の労働条件改善が必要と考え、国や県に人材不足の改善、介護職資格者の養成について要望していききたいと思います。また、高齢者を支える取り組みとしては、民生委員や区長による見守り活動を行っており、県では、事業者と協定を結び、異変に気付いたら社会福祉協議会や町に連絡するという体制を構築しています。

氷川中 3年 鬼塚 健大 議員

エコ活動の実践を促進するエコマネーの検討について

ボランティアエコ活動に対する対価として、エコマネーを導入することは、経費もあまり掛からず良いアイデアだと思います。エコマネーを導入する考えはありませんか。



答弁 町民環境課長補佐

合併前に使用済み食用油の持ち込みや廃油せっけんづくりの労力に応じた地域通貨のシステムを構築しましたが、継続が困難となり、3年程度で取りやめとなりました。エコマネーについては、経費をあまり掛けずに循環させていくシステムを確立して取り組まなければなりません。ごみ減量化をはじめとした環境活動には積極的に取り組んでいく必要があるため、先進自治体の事例などを参考にしながら、再度実施する可能性を模索してみたいと思います。

竜北中 3年 小島 悠良 議員

食の自立支援について

我が国は急速な勢いで少子高齢化が進んでいます。氷川町も例外ではなく、今後高齢者の一人暮らしの世帯も増えてくるのではないのでしょうか。氷川町は店の数も少なく、高齢者にとって買い物をするのには不便です。生きていく上で不可欠な食に対しての支援はどうなっていますか。



答弁 健康福祉課長

平成22年国勢調査によると、本町の世帯の23.8%が高齢者のみとなっており、増加傾向にあります。そのような状況の中、一人暮らし高齢者などに配食サービスを行うことにより、食生活の改善と健康増進を図り、在宅での自立支援を行っています。買い物支援については、社会の住環境の変化に応じ、住民ニーズを把握した上で、対策を講じていきたいと考えています。

竜北中 3年 上本 岳佳 議員

ブレママ・パパ教育について

男女共同参画社会の中で、女性の社会進出が盛んになるのは良いことだと思いますが、家庭教育力が低下するのではないかと不安もあります。最近親が自分の子どもを虐待したり、放任したりというニュースも見られますが、出産前の親に対して行っているブレママ・パパ教育について教えてください。



答弁 健康福祉課長

両親が妊娠期の正しい情報を知り、心身共に赤ちゃんを向かい入れる準備をすることを目的に開催してきましたが、就業形態の多様化により、両親そろっての開催が難しくなりました。現在は産婦人科医院を通じて、最初に妊婦に会う機会である母子手帳交付時の両親での参加を呼び掛けています。母子手帳交付は個別に行うため、ケースごとの生活背景に合わせた説明、助言を行っています。

竜北中 3年 緒方 遥香 議員

各地区の伝統的な祭りについて

氷川町には三神宮のお祭りがありますが、竜北中学校の生徒には、あまりなじみがなく、竜北地区は宮原地区に比べ、祭りが少ない気がします。もしかすると途絶えてしまった祭りがあるのではないのでしょうか。町では伝統的な祭りや芸能の保存、復活についてどのように考えていますか。



答弁 生涯学習課長

氷川町では、三神宮のお祭りの他、鹿島神社のお祭りや各地区で夏祭りなども行われています。伝統ある祭りや行事は地区の方々から継承されているのが大半ですが、後継者不足などの問題により、途絶えている行事もあるようです。「どんじや」のように一時途絶えていた地区でも、地区住民の努力により復活した例もあります。また、町では指定無形民俗文化財の保存団体の活動に対する補助も行っています。

氷川中 3年 上木屋 晴斗 議員

地区のまちづくり活動への参加支援について

氷川中学校では、チャレンジショップや三神宮大祭を通じて、町内の方々と触れ合う機会とともに、まちづくり活動について学ぶ機会を頂いています。各学校の特徴ある学校づくりとして一緒に行く、地区のまちづくり活動への参加支援について、お聞かせください。



答弁 総務振興課長

本町の小中学校では、早くからコミュニティ・スクールに取り組み、地域と共にある学校づくりを目指しており、各学校でも特徴ある学校づくりとして、多くの地域行事に参加しています。その中で町としても会場提供や祭りへの参加補助も支援しています。社会に出てたくましく生きていく人材の育成のためにも、学校づくりの支援に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

氷川中 3年 塚田 透子 議員

環境美化一斉行動の実施について

氷川流域を見てみるとまだ清掃が行き届いていない場所があります。手入れされた環境は観光資源として魅力的であり、町民が一斉に清掃活動に取り組むことで、よりアピールできると思います。環境美化一斉行動の一環として、氷川の環境保全について町民全体で取り組んでみてはいかがでしょうか。



答弁 町民環境課長補佐

氷川町と八代市の行政職員で構成する氷川流域協議会団体と流域在住の有志で組織される氷川せせらぎの会が合同で年に1回河川公園の清掃活動を実施しています。また、氷川の水質改善を目的としたかき殻の放流イベントや町内小学校においてホテルの幼虫であるカワニナを放流するなど環境学習を兼ねた活動を展開しています。今後は清掃区域や参加対象者の拡大を考えていきます。

氷川中 3年 林田 千寛 議員

ジュニアリーダー育成および活動機会の充実について

ジュニアリーダーの活動が、他の児童にあまり知られていないと思います。予算を拡充し、プログラムを改善することで、参加者を増やすことが活動の活性化につながると思いますが、町では活動を広めるためにどのようなことをされていますか。



答弁 生涯学習課長

ジュニアリーダーは、子ども会で活動する子どもたちのお兄さん、お姉さん役として活動を支え、子ども会活動のリーダー的役割を担っています。子ども会行事などでのPRや広報誌での活動報告を行っていますが、あまり知られていないのが現状です。今年度はサバイバル体験などを計画し、活動の充実を目指しており、参加者がジュニアリーダー活動の楽しさを友達に広め、参加者が増えてくれればと思います。